



京都への文

優秀作品集

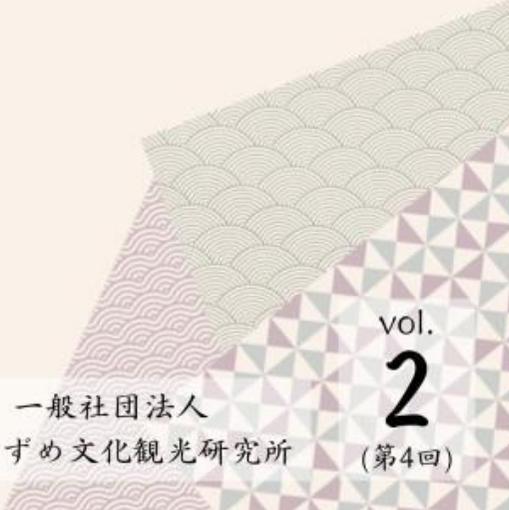


一般社団法人
京すずめ文化観光研究所

vol.

2

(第4回)





京すずめのLogo
京の字を大文字の東山、北山、西山
すずめをイメージした図案です。

このロゴをご使用していただく場合は京すずめに問い合わせいただける様お願い致します。

目次

1	第四回「京都への恋文」入賞作品集発行のご挨拶	・・・2
2	祝辞	・・・3
	概要、講評、受賞作品	
3	第四回「京都への恋文」入賞作品	・・・6
4	第四回「京都への恋文」公募	・・・33
5	第四回「京都への恋文」公募に当たってのメッセージ	・・・34
6	第四回「京都への恋文」公募と「京都への恋文広場」 開設 第四回「京都への恋文」審査委員会	・・・37
7	「京都への恋文広場」広場長ご挨拶	・・・38
8	東山魁夷画伯の「京洛四季」序文	・・・40
9	黒澤 明監督の愛した京都	・・・40
10	「京都への恋文」誕生の経緯	・・・43
11	「京都への恋文」後援、協力、協賛企業	・・・47
12	一般社団法人京すずめ文化観光研究所 保有商標のご紹介	・・・48
13	編集後記	

第四回京都への恋文

入賞作品集発行のご挨拶



京すずめ文化観光研究所
理事長 土居好江

2021年「京都への恋文」に 658 作品のご応募を頂きました。どの作品も京都への深い想いが寄せられていて、感動的な作品に出合えたことに感謝申し上げます。

コロナ禍にはじまった公募でしたが、京都にかけてくださる言葉に感動しています。ご応募賜りました皆様に、感謝の気持ちを持ってこの冊子を作らせて頂きました。

作品集を発行するにあたり、新ためて、一つひとつの作品を拝見して、その作品が、京都を舞台に繰り広げられ、京都というまちの自然や祭、行事に励まされている場面が数多くございます。

人生の曲がり角で、好転するキッカケとなった京都訪問で、幸せを感じられるようなご案内役となれるよう、心新たにしたところです。10年後、20年後も「京都への恋文」が続いていくことを願っております。その扉を皆様とご一緒に開き、京都の奥深さをお伝えできれば嬉しく存じます。

世界中の人が京都を知ること、幸せになり、京都を訪問しただけで、自分自身を取り戻せるように、京都の隠されてきた歴史や文化を発信していきたいと思っております。

私自身も更に自分自身を再発見しつつ、京都を究め、自身の人生を究め、自然との調和を高めて、京都の新プロジェクト「究プロジェクト」も開始して参ります。すべての皆様に感謝しつつ次回の京都への恋文で、皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

「京都への恋文」入賞作品集発行のお祝いの言葉



京都市長 門川 大作
京都への恋文広場顧問

京都を愛する皆様がその想いを綴る「京都への恋文」。

皆様は、この度「京すずめ大賞」に選ばれた作品をもう御覧になったでしょうか。思い出の京都の桜、京都でのイタリア料理を、また見たい、食べたいと願う高齢の母との会話を綴った作品。これを拝見した時、私もかつて母と交わした会話を思い出し、翌日、母の大好物であるあられを霊前にお供えしました。その時、母のとびっきりの笑顔が見えたように思います。

これらたくさんの心温まる“恋文”を通じて、京都のまちには、多くの忘れ得ぬ、いくつもの出来事、思い出があることを実感しました。琴線に触れる作品の数々を募り、発信することで、京都の魅力や文化を次世代につなぐ。一般社団法人京すずめ文化観光研究所の皆様の貴いお取組に、改めて深く敬意を表します。

京都は今、コロナ禍をはじめ様々な危機に直面していますが、皆様の京都への想いに力をいただきながら、この難局を必ずや乗り越え、京都のまちに息づく文化を大切に未来につないでまいります。引き続き、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

「京都への恋文」入賞作品集発行のお祝いの言葉

亀岡市長 桂川 孝裕

憧れの京都、愛する京都への思いを綴った第四回「京都への恋文」が、多くの皆様のご参加により今年も開催されましたことを心よりお慶び申し上げます。

また、この度、入賞作品や最終選考に残った40作品と共に審査委員長の講評がまとめられた冊子が発行されますことを心からお祝い申し上げます。

日頃から京都に深い思い入れを持ち、京都の伝統文化の発信にご尽力いただいています土居理事長をはじめ関係者の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

コロナ禍の中で社会や地域において思うように物事を進めることができない状況にありますが、知恵と工夫により新たな with コロナの創造が求められています。

そんな中、一般社団法人京すずめ文化観光研究所では、「京都への恋文広場」をホームページ上に開設され、ネットによる投稿も行われるなど、今後、世界に向けた京都の伝統文化発信へと繋がるものと期待しています。

また、今回の「京都への恋文」の開催を契機として、亀岡市のふるさと納税返礼品に「京都への恋文」記念あられの登録を検討していきたいと考えていますので、この場をお借りして一言申し添えます。

結びにあたり、「京都への恋文」が日本のふるさと京都へ思いを寄せる人たちのプラットホームとなり、新たな魅力や感動、そして交流の輪が広がっていきますとともに、ここ京都にしかない伝統文化を世界に発信されることを祈念し、ご挨拶といたします。

第四回「京都への恋文」審査委員長講評

多くの応募をいただきました。ありがとうございます。みなさまの熱意には、こちらも真摯にむきあわねば。そう思って、ていねいに読み、また見させていただきました。

審査員は、みな日常的に京都の街をゆききしています。京都には、馴れっこになっていると言っていいでしょう。ですから、通り一遍の感想をしめされても、感銘はうけません。嵐山がきれいだと言われても、食指はうごかないのです。

へー、あの街角で、そんなことがあったの。なるほど、あそこはそう見えるんだ。以上のように、意外な京都像をえがいた作品が、高い評価をうけました。

上位入賞者には、京都で癒される話が多かったと思います。とくに、気分のめいつている人が、京都で回復のきっかけをつかまれる話は、いいですね。街じたいがカウンセラーになっていたのかと、感じいったしいです。

ここ二年ほど、私たちは新型コロナと呼ばれる感染症におびえてきました。気も弱り、ちちこまりながら、くらしています。この閉塞感も、今のべたような文章を良しとさせたかもしれません。審査員一同もまた、癒されたがっていた可能性はあります。

次回以降も、同じような傾向の作品がえらばれつづけるかどうかは、わかりません。コロナ明けには、はじけたような応募作をたのしみたい。私のなかには、そんな想いもあります。

いずれにしろ、入選なさった方がた、おめでとうございます。受賞式でお目にかかることを、たのしみにしています。まあ、これも感染症の動向しだい、どうなるのかはわからないのですが。

入賞作品

京都への恋文大賞

清谷 冴子

兵庫県姫路市

今から20年前。

色々なことがうまく行かず、時間を持て余した私は、夜行バスに飛び乗って京旅行へ行った。

京都に着くと、観光スポットというスポットを巡り歩き、神社やお寺に向いては願掛けをして大願成就を願う。

その道中で、ひとりのお年寄りと出会った。

「だいじょうぶ、だいじょうぶ。のんびりいきなはれ」

私が京都に来た理由を告げると、お年寄りは背中を伸ばして、腰にあてていた手をほどき、私の背中をポンッと押した。

すると、私の心はフワッと軽くなり、視界が明るくなった。

あの日から20年。

私は自分らしく、のびのびと生きている。

京都の街はもちろん、京の人は、私に新しい息吹を吹き込んでくれた大切な存在。大切な場所である。気軽に京都へ行ける日が待ち遠しくてたまらない。



京すずめ大賞

松下 弘美

埼玉県東松山市

母の記憶は日々消えてゆく。僕の名前さえ分からないこともある。そんな母が春、桜を見たいと言ったので、車椅子を押して近くの公園まで出かけて行った。けれども、「この桜と違う」と、首を大きく横に振る。

家に帰って、昔のアルバムを引っ張り出して、桜の写真を探した。あった。京都の桜だ。父と結婚して間もなく、二人で行った京都の春だ。東寺、二条城、平安神宮と、桜と一緒に父と母が写っていた。

その後父が始めた商売で忙しく、子育ても始まり、旅行どころではなかった。父はもう十年も前に他界したが、母の中ではまだ生きていたのかも知れない。

「また京都の桜、見に行こうね」母のベッドの脇に座ってそう言うと、母は少女のような目をして微笑んだ。「桜の後はイタリア料理、食べたいわ。京都のイタリア料理、最高だった」

若い父と母はイタリアンの店で食事をしたことを、初めて知った。

「うん。食べに行こうね」

足腰の弱くなった母を京都に連れて行くことはもうできない。でも、母は、とびっきりの笑顔で僕を見た。母の中では京都の桜は、過去のものではないのだ。現在でも、瞼を閉じれば、まざまざとその光景が広がっているに違いない。

コロナが収まったら、次の春は京都へ、妻と二人っきりで行ってみたいと、ふと、思った。



審査委員長賞

伊藤 圭

インドネシア在住

妻の誕生日が八月十六日だと知ったのは付き合い始めてしばらくしてからだったろうか。

「その日は紫野の実家にいるから遊びに来て」と言われた。

仕事の後、大阪から電車で京都へ向かった。北大路駅から大徳寺へ向かって歩いていると、丁度左大文字が点火され眼前に浮かび上がった。家では彼女の甥姪ら、子供たちも道に出て燃え盛る火を見上げていた。そしてご両親と夕食をとり誕生日を祝った帰り道、名残惜しくて振り返ると山はまだ微かに燃え続けていた。

この時の気持ちは今でも思い出す。いつから始まったか定かでない五山送り火。それが今も保存会による助け合いで連綿と続き人々の生活に

しみ込んでいる。その地で生まれた女性だということに大きな安心感を抱いたのだ。結婚して二十二年、私は幸せです。

京都よ、死後は今度、魂として毎年ここに帰ってきます。送り火の続く限り。



審査委員長賞

阿部 実織

北海道札幌市

結婚直後にコロナウイルスが流行し、緊急事態宣言が出たことで、京都新婚旅行の予定は白紙になってしまった。

約1年後、夫はうつ病になり会社を辞めた。しばらく自宅で抜け殻のように過ごしていた夫だったが、ある日ぽつりと言った。

「京都に行きたい」。

気分転換も兼ね、夫と京都へ旅立った。

以前はさほど歴史に興味がなかった夫だが、極楽浄土を描いた平等院や金閣寺など建造物の数々を噛み締めるように見つめていた。私達が生まれる何千年も前から、当時の人々も私達と同じように安息を求めているのだ。

京都にいる間、夫の表情は柔らかかった。

古を感じる街並み、何千年も前から人々が祈りを捧げ続ける神々が宿る地。

これが本当の日本の姿なんだねと、夫が言った。

美しい景観と人々の想いが集う京の風が、渴いていた夫の心を潤してくれたようだ。

帰り際、夫は小さく「またいつか子供と一緒に来よう」と言った。少し照れくさい、遅めの新婚旅行だった。



京都に感動賞

丹内 哲郎

埼玉県さいたま市

転勤が 京都と聞いて 妻驚喜 単身駄目と 先手打たれる

京都への恋文思い出賞

安藤 知明

大阪府豊中市

1970年代の初め、ナイジェリアの空港で白人男性から、「Kyoto はお元気ですか？」と声をかけられた。よく聞くと、人名ではなく「京都」の町のことだった。

東海道新幹線建設に融資のため、世銀の担当者として日本を度々訪れ、その都度京都へ足を延ばしていたのだ。「大都会でありながら古都の趣があって、心が洗われたものだよ」と、なんとも懐かしそうに話す。

1950年後半、60年前半のこととて、まだ英語の案内板やアナウンスが少なく、もっと知りたいと思っても限界があったらしい。外国人の観光客は珍しく、街を歩いているとサインを求められたりして、「俄かスターになった気分だったよ」と、高笑いした。

待合室のベンチに腰掛け、京都の話題で盛り上がった。「日本が大きなプロジェクトを立ち上げ、また世銀からお金を借りてくれたら、再び私の出番もあるんだがね」と、京都への未練がたつぷりであった。



京都への恋文出会い賞

安藤 知明

大阪府豊中市

京都では路地裏巡りも風情があつていい。歩くたびに新しい発見がある。町家が軒を並べているが、その閑静なことといつたらない。まるで旅の途中でオアシスにでも居るかのような心地になる。石畳だったりすると、浴衣を着て下駄履きでカラコロと歩きたくもなる。

先日、「染め直し致します」と看板のかかった店を見つけた。私の気に入っているベレー帽が色褪せていた。妻からは「新しく買いなさいよ」と言われていたが、愛着があつた。「これ、元通りの黒色に染まりますか？」と訊くと、「新品同様になります」との返事。早速預けてきた。出来上がりが楽しみだ。

祖父の形見の懐中時計が動かなくなっていた。これも路地裏で見つけた時計修理店で直してもらった。もう3年も前のことだ。以来、順調に時を刻んでいる。

新しい発見のある路地巡りは、これからも思い立ってはでかけたい。



京都への恋文出会い賞

磯邊 綾菜 京都府京都市

「今日は水無月食べよし」

季節を楽しむ生き方や、暦の行事を守って生きる人らを愛しく思うこの感覚を、私に残してくれますか。

何回もあの人と歩いた夕暮れの鴨川。夜な夜な通った、おぼんざいをちょっと多めに盛ってくれる木屋町の居酒屋。友達と思いつきで行った紅葉が燃える嵐山。毎日チャリで通った叡電沿いの小径。白んだ空がちょうど見えて、夜更かしも 悪くないなと思った下宿の窓。

あと少しで、京都を離れる。

この街を舞台に、たくさんの人に出会った。一緒に眺めた色とりどりの景色はあっという間に過ぎ去っていく。その角で、あの店で、通りすがりのたくさんの人生に想像を巡らせた。それから、自分の将来も考えた。ふらふら歩いては、仲良くなった人とビールを片手にいろんな話をした。

「あんたがおらんと、さみしなるなあ」

そう言ってくれる人らと、どうかまた巡りあわせてください。



京都への恋文ほのぼの賞

盛武 虹色

愛媛県今治市

はじめて聞いた京ことばを花のようだと思った。春のやわらかさを纏った花のようだった。「行きはる」「今日は行かへん」のように「は」行を多く含んだ言葉はふわふわとした響きを持っていた。空気を包み込むようにして発音される言葉は柔らかかった。

テレビなんかの違和感のあるエセ京言葉ばかりを知っていた私は、京言葉を気取った造花のような、装飾だけが多い料理のようなものと勘違いしていた。けれども京都駅で初めて浴びた本物の京言葉は洗練された天然の温かみを持っていた。

長い歴史の中で洗練された京言葉は、京都の素朴な美しさに調和している。京都と言えば、華やかな町でよく知られているけれど、それは決して派手な華々しさではない。恋文にそっと添えた花のような密やかなものだ。

謙虚な美しさを主張する京の都を巡っている色とりどりの京言葉。王朝の人々がひょっこり出てきてしまいそうな京都の路地に今日も京言葉が薫っている。



京都への恋文風景賞

鈴木 邦義

神奈川県横須賀市

北山杉

64年前、下宿(金閣寺前)のおばあさんに「鷹峯から山道を暫く行くと菩提の滝があり、その先には北山杉で有名な村がある」と聞き、早速ハイキング。

しかし、山道を行けども行けども…。「この道？」と不安が過った時、聞

こえた滝の音に安堵。

菩提の滝を下った先は山が両側から迫る、川添いの小さな村で、山々には頭部に緑を残して真っ直ぐな幹だけとなった杉の木が林立しており、その美観に息を呑んだ。(若木の内から枝を切り払い続ける由)

村には皮を剥いた杉の丸太を立て掛けた家があり、それを女性が砂で磨く姿も見られた。(この砂は菩提の滝の下に溜まった、糖の様に軟らかく砕ける砂とのこと)

それから30年ほど経ち、家を新築する際、床柱は北山丸太を指定。以来、彼の地で生まれた白木の丸太が床の間に清楚な気品を漂わせ、私を青春時代のあの日に誘ってくれる。心を込めて育て、磨いてくれた北山の人々に感謝しつつ、杉の美林に思いを馳せている。



京都への恋文風景賞

鶴田 恵江

岡山県倉敷市

鴨川さん、私はあなたにどれだけ癒されたらろうか。

新人ナースだった私は、鈍臭く要領も悪く、出来ないナースだった。忙しい日々、進まぬ業務、人間関係にいつも悩んでいた。いよいよ苦しくなると、決まって鴨川まで出かけて行き、川のほとりに腰掛け、その流れを何十分も見ても過ごした。

その頃入院してきた女性がいた。検査をしても原因が分からず、治療が始まっても症状の改善は無かった。彼女はいつも布団を被って塞ぎ込み、部屋まわりに行った時、険しい表情を緩める事は無かった。

ある日、少しでも病気を考えない時間を共有したくて、「頭をリセットしたくて鴨川のほとりで流れを見てたら、何と30分寝ていた」と話したら、とても面白がって下さった。鴨川さん、彼女にも癒しを有難うございました。



京都にんまり賞

鈴木 邦義 神奈川県横須賀市

京おんなやさしさ八分二分いけず



準入賞作品(応募日時順に掲載)

鈴木 久夫

岐阜県羽島郡笠松町

つい誘われてしまう。京都の町にはそんな魅力がある。どことも分からないような路地に迷い込んで行くと突然大きな神社やお寺に出くわしてしまうことがある。ガイド本に書かれていないような、それでいてなぜだか惹かれるような場所に出る。私はできるだけ交通機関を用いなくて、町中を歩く。路地には猫がのんびりあくびをしていたり、自転車を押しながら歩いている人がいたりする。黒壁の綺麗な通りがあったり、石畳のある場所に出たりする。歴史が化粧するとこんな街ができるのかと考えてしまう。古都特有の香りがする。この町には大勢の人は似合わない。

細い通りから、新撰組や坂本龍馬が出てくるような場面を想像してしまう。残されている地名から浮かび上がる。現実の風景の向こうに幕末の風景を見てしまうのである。

こんなに長い歴史を持つ残された町はない。しかもこの町は現役である。今でも新しい文化を世界に発信しようとしている。



椛 朱梨

熊本県熊本市

自分だけの時間を持ちたい時、無性に京都に行きたくなる。なぜなら、京都にはいろんな顔があり、いろんな過ごし方があるからだ。あるときには、ガイドブックのような過ごし方をしたり、あるときには、自由気ままにぶらぶらしたり。

でも、一番お気に入りの京都での過ごし方は、ただぼーっとすることだ。それは、龍安寺であったり、祇王寺であったり、天龍寺であったりす

るのだが、腰掛けてただ庭を眺める。すると、自分自身と向き合っ、心が整理されたり、新しいアイデアが生まれたりするのだ。心が浄化され、明日への活力が生まれる気がする。

そんな京都が私は好きだ。



釣 まなか

山形県山形市

「まるたけ、えびすに」

幼い頃、従兄弟を訪ねて遊びに来た京都で盛大に迷子になった。子供特有の好奇心で飛び出して最後、同じような風景が延々と続く通りにすっかり道がわからなくなってしまったのである。

土地勘なんてあるはずもなく、道の端っこで途方に暮れていた私。そんな時に、手を差し伸べてくれたおばあさんのことは、一生忘れることはないだろう。

私の両手いっぱいにちりめん山椒をのせつつ「これを覚えればもう迷わへんさかい」と教えてくれた通りの数え歌。この歌は、あれから十数年経った今でも、時折口ずさんでしまう。

もし、京都に行ったとき、あの時のおばあさんに会えたなら、その時は「もう迷わないよ！」と大きな声で「まるたけ えびす に おし おいけ…」と歌ってみせるのだと決めている。



永禮 信義

岡山県津山市

我が住む町、岡山県津山市は西の京都と言われております。
津山の歴史は、京都に負けず劣らず古いです。

津山の方言に、「きょうとい」があり、こわいと言う意味で使います。昔の旅人は、津山から京都への道のりは遠く険しいものだった様です。京都は遠いから京は遠い、そしてきょうといの方言になりました。このように、津山人は、遠くて怖い存在の京都は、訪れてみたいあこがれの地でありました。



安藤 知明

大阪府豊中市

大阪の会社に就職が決まると、母の喜ぶこと頻りだった。
「これで、私の念願の京都に行けるわね」

樺太、北海道育ちの母にとって、『京都』はまるで遠い異郷の地だった。

「母さんが来たら泊まれるような家を借りておくよ」

貧しい中、大学まで出してくれた母への恩返しのチャンスでもあった。

母がやって来る前に、私が京都を知らなければ案内もできない。仕事に慣れると、毎週末京都に足を延ばした。金閣寺、銀閣寺、清水寺、二条城、御所、三十三間堂、東寺などなど、巡っても巡っても尽きない。瞬く間に1年が過ぎた。

2年目の春、母を招いた。どこを訪れても千朶万朶の桜。円山公園のしだれ桜に母はいたく感激した。「泊めてさえもらえば、あとは一人で行動するから」と母。5, 6回やって来ると、私よりも京都通になっていた。



石庫 要

石川県河北郡津幡町

京都への想いは、憧れを永遠に追い求める恋なのである。この街はいつでも誇り高く、簡単には人を受け入れない孤高の街なのだ。それでも、人は京都に魅力され、気がつくとその渦の中へ深く引きずり込まれてしまう。抗うことができないエネルギーは、千年を超えて栄える都の時空まで操るブラックホール、世界の中心軸が、今も激しく発している。

ありとあらゆる情報や物が身近にある時代、何でも簡単に手に入ると錯覚する。しかし、心から満足感を味わっているのか。本物を知り、体感し、自分との関係性を吟味して初めて己の限界を悟る。さらに疎外感に苛まれ、そして絶望する。しかし、その先に未来への希望と本当の生きる喜びを見出だすはずだ。生きることの根源は、恋するエネルギーだと教えてくれる。それが京都である。この永遠の都は全てを包含している。人びとは、いつでも、そしていつまでも京都に寄り添いたいと願うのだ。



山崎 菜南

埼玉県久喜市

「ベタなこと、しましうか。」今思い返すと、鴨川のほとりに等間隔で座るなんて、ちょっと恥ずかしいな、と赤面した。私の初恋の人が住んでいた街は、条坊制で区切られた、歴史のある古都だった。

「夜中の伏見稲荷さんは、半端な気持ちで近づいちゃいけないんだよ。」「こっちに良い組紐のお店が隠れてるんだ。」

関東出身で右も左もわからぬ私の手を取り、彼は嬉しそうに京のまちを案内した。恋人になってからは、デートの度に鴨川のほとりに腰掛け、「私、こっちにきてよかった、あなたに会えたから。」と言うと、すかさず彼は「もし僕がいなくなっても、ここを好きなままでいてね。」と返すのがテンプレートになっていた。彼は、本当にこのまちが好きだったんだなあ。と思う。数年前、彼は大学の研究のために 海外へ行ってしまい、私は関東の実家へと戻った。

私たちがいつか京都に戻ってきた時も、鴨川には等間隔でカップルが座っているのかな、その時は、一席分だけ、開けておいてね。



早川 友浩

福岡県福岡市

京都に恋して早くも 8 年。
学生時代を京都で過して以来、私の第二の家だ。
京都には京都があり続ける。行く度に新しい店ができ、姿形を変えても尚、そこには京都がある。

ある日、学生時代にお世話になった最も歴史あるとされる神社へ足を運んだ。

知り合いの神職の方に私は呟く。

「やっぱり京都はいいですね。また住みたいと思える。でもだいぶ変わりましたね何だか。寂しい気持ちになります」

神職の方は答えた。

「そりゃ変わるさ。全てそうだよ。革新が伝統を守るんだからね」
新しい時代を取り入れて京都は完成していく。進化し続けている。
どこか不安になる言葉だったが、京都の伝統はこれからも生きていくことの安心感が芽生えた。

京都に行きたくなるのは、いつでも待っている京都とまだ見ぬ京都に会いに行きたくなるからだ。

私には夢がある。若いうちは全国を飛び回り、老後は京都に浸りたい。周りにも公言している。

私は一生京都に恋をしていくんだらうなあ。



村井 日向子

京都府向日市

八重に咲く下つ枝が梅に香をたづぬ はなも時しる京の朝風
(やえにさく しもつえがむめに かをたづぬ はなもときしる きょうのあさ
かぜ)

今年の二月静かな朝の梅園で祖母と久しぶりに散歩にでかけ八重梅を眺めた際ふと風が吹いてきたときに書き留めた和歌です。”



葛山 彩香

愛知県名古屋市

何でも無い平日の昼間、京都駅発のバスに乗ってぶらりと出掛ける。学生にとって一日乗車券ほどありがたいものはない。相変わらずマイペースなバスに揺られながら、緑の輝く町並みを眺める。

「次は金閣寺道～」バス停を告げるアナウンスの声に、ふと周囲を見渡す。対向車線では、京都駅を目指す観光客が押し問答を繰り返している。——お疲れさまです。それを尻目にのんびりと上る。人気の少ないバス停を降り、寺院へ歩みを進める。私の他には年配の女性がひとり。

薄暗い本堂に入ると、自身の瞳孔がわずかに開くのを感じた。丸い窓は、その中に美しい青もみじをひとり占めしている。

暈に薄く広がる緑の光。

ほのかに感じるお香と夏のにおい。

風の通り道。

静かな時間だけが過ぎてゆく。

なんて贅沢な一日。そんな日が恋しくてたまらない。



曳田 優

埼玉県さいたま市

京都という町は、時代に伴う移り変わりはあるものの、『京の都』という確固たる存在としての移り変わりは存在しないなど感じる。

私は幼いころに一度、修学旅行で一度、成人して何度か尋ねたことがある。

やれ神社の修繕作業だの、やれ工事だの、そのようなものは存在しているが「そのもの」事態が消え去ることはなく、「変わらぬものたち」が集まって変わらぬ「京の都」が今日も存在している。(京だけに)

だからこそ、何度でもあの場所を訪ねたくなる。

自分も、人も、時代も、世界も、移ろい変わりゆくけれど。

あの場所だけは変わらない。平安の頃からの「都」であり、

今もなおその名前を保ち続けているのだ。

移ろいに負けず、そこにあり続ける場所。それが京都。

変わらない思いというのは情熱的ではないので、恋とは呼べないが、変わらないものを思い続け、何度でも訪ねたくなる。

それが京の都に恋をしているということではなかろうか。

岡部 晋一

神奈川県横浜市

僕のあだ名が「おたべ」になった理由

中学校の教員をやっていた私は、京都・奈良への修学旅行の引率を九回もやった。京都に行くと、「おたべ」という生八つ橋の銘菓がある。その「おたべ」を見ると生徒たちは、私の目の前で、大きな声で生徒同士「おたべ旨いぞ」「おたべお土産にいいな」等とわざとらしく言う。

実は、私の名前は「おかべ」(岡部先生)である。学校では、生徒指導に厳しい私への生徒の仕返しのように、わざと私の前で、「おたべ」と言い、中には、「おかべ」と言う悪い奴もいる。

完全に私は生徒たちに仕返しされた。修学旅行が終り、中学校に帰って来た日から、岡部先生のあだ名が一つ増えた。そのあだ名は「おたべ」である。卒業生の同窓会に行ったら、幹事が「おたべ先生挨拶を」と言ったので、卒業生全員が爆笑した。

米倉 美穂

福岡県糟屋郡志免町

片思いは、小学校低学年。茶道や華道をたしなむ祖母に連れられて、街並みを歩いた頃に遡る。石畳の小路やどこからか香ってくるお香の匂い、新緑の頃だったと記憶しているが、色々な葉色の緑を作る木陰が美しく、胸を射抜かれたような、いわゆる初恋のようなものに始まった。

故郷が京都である人と恋に落ちた。その人が好きだったのか、京都出身だから好きになったのかは未だにかなり微妙な恋だった。当て馬のような恋は長続きせず、傷心旅行にと京都へ。初めての一人旅。京都は女性の一人旅が特別でないのがいい。そんな歌もあったか。貴船神社や鞍馬へ足を延ばしても、安心して歩ける。下賀茂神社まで降りて来た頃には、なくした恋のことなどどうでもよくなっていた。

それから、時々京都へ足を運ぶ。特に何か目的を持つこともなく、ただただぶらりと歩く。初めて恋をした時のように、木漏れ日の下を歩きながら、頭の中を整理できる唯一無二の街である。



藤本 綾音

奈良県生駒市

春は哲学の道、手を繋いでゆっくりと歩く。たまに桜を二人の間に入れてあげて写真を撮ったりする。

夏は祇園通り、暑いから手はほどいて浴衣に腕をまわす。屋台だらけの道に迷うのもまた一興。

秋は清水寺、別れてしまうと言うジンクスを石から石へまっすぐ歩いて私たちは違うと示したりする。

冬は下鴨神社、二人で入るけど別の場所に御賽銭を入れて柄の違う御守りを買う。でも御神籤は絶対一緒に浮かべるの。

清少納言が四季折々の瞬間を愛したように、私は京の都を好きな人と回るときを愛してる。風景や音、気温やならわし。ジンクスなども愛おしくなる。長くまっすぐ続く道、つい時が永遠になって欲しいと願ってしまう。

奥ゆかしい京都、恋をするならここがいい



佐藤 俊明

神奈川県座間市

早朝の京都が好きだ。いつも一人で歩く。この時間、妻はいつもホテルで寝ている。

秋。目的もなしに歩いていると目の前が真っ赤になった。橋の上から目を凝らすとそこは東福寺の庭だった。普段、呟くことなどない私だが「凄い」と一言呟き、すぐ「駅ちか」のホテルに引き返した。

「凄いところがあったぞ。すぐ行こう」。

朝以外は妻と一緒に歩く。なるべく電車バスは使わない。地図を頼りに1日 20000 歩を超えることもある。気分が高揚しているから疲れない。二人とも方向感覚に優れず、目的地を失うことも多々ある。そんな時「どこをお探しですか。ほな、一緒に行きましょか」と気さくに声をかけてくれる京都の人がたくさんいるのは意外だった。それまで抱いていた京都人のイメージは「冷たくお高い」だったから。大きく変わった。

八年まえから毎年恒例となった京都への旅。残念ながら昨年今年と実現できていない。早くの収束を願いたい。



関 とし子

埼玉県さいたま市

無性に生麩が食べたくなる時、京都へ行きたくくなります。墓参りに帰る度、五条坂の「半兵衛麩」さんで生麩づくしのランチを食べに行きます。この感激をお土産に、知人へと配送してもらいます。生麩を送った友人はたいそうな喜びようで生麩の持つもちもちに感にすっかりとりこになったそうです。デパートにも生麩の日持ちの短さのせいかな。扱っていませんし。ネットで取り寄せた生麩は冷凍で、求める味ではなかったそう

円山公園のいもぼうも忘れられない味付けのお店です。よくサスペンスなどにも海老芋とニシンのお椀をちらと見る度京都を思います。旅行の最終日には必ず錦市場に寄り、子供の頃から好きなたし巻きやう巻き、祇園祭に食べた鯖寿司を買って帰ります。

京都物産展があるたび。すぐきや千枚漬け。そして生麩を求めて出向きます。もっとかんたん生麩を日常の食卓に取り入れられないでしょうか？

生麩が食べたい1冬に季節が向かう度、心は京都へ馳せ飛んでいます。



長尾 賢治

和歌山県和歌山市

清水, 祇園, 北山

京都の町並みはどこも美しく、情緒あふれている。

しかし、その中でも私の故郷”宇治”は絶対に外せない。

その昔、京都と奈良、新旧の都を繋ぐ交通の要であった宇治。

早朝に京都を出た旅人は昼頃に宇治で一休みし、夜には奈良に着いたという。

町の中心部には”暴れ川”の異名をもつ宇治川が流れており、そこには日本最古の橋のひとつ「宇治橋」。

橋を境に、北側には豊かな自然と源氏物語の世界が、南側では平等院鳳凰堂を中心とする活気あふれる町並みが広がっている。

宇治橋の周囲をちょこっと散策すれば、森、川、寺社仏閣、スイーツ……。

休日の至福がすべてその一か所に詰まっている。

そして何よりも、町並みが穏やか。人が温かい。

やっぱり宇治っていいな。

この地に生まれ育ったことに感謝したい。

また行くよ。



辻野 健一

大阪府富田林市

京都のどこが好きと聞くが、君はずるいよ。

古都京都と人は云うのに、そんなに古い感じがしない。

勿論、落ち着いた雰囲気ではある。

だけれども、どう考えても、それだけではない。

どこか華やかさがあるんだ。

人を魅了する上品で明るい陽気さまである。

そして、君のことを考えると、夢中になるよ。

朝の澄んだ空気に佇む町々 夕映えの神社仏閣

歩いて、君を見るのもよし 立ち止まって 心行くまで君を眺めるのもよし
なんだって似合うんだ。そして、こんなに考えさせるのに、どうだ君は、
おしとやかで、少し天然でマイペースで居られる。

参ったよ、でも遠くから眺めるだけなんてしたくない。

隅から隅まで探すんだ。僕はきつと見つけるよ「ほんなり」を
いつかきつと君の中に見付けてみせる。それが好きなんだ。



轟木 信也

群馬県渋川市

(短歌) 紅葉に 心うばわれ 石段を 老いしわが母 手つなぎのぼる



にわとりママ

京都市左京区

「お地蔵さん、多いなあ」

京都に引っ越して2日目で気付いたことだった。

生活圏内に有名な観光名所はたくさんあったけれど、無目的にぶらぶら
と歩く散歩道でぼったり出会うお地蔵さんの数が多いこと、それこそが私
の肌で感じた京都感だった。

やがて2人の娘が生まれた。

京都には地蔵盆という行事があるらしい。私にとっては、聞いたことも見たこともない行事だった。

子どもの健やかな成長をお地蔵さんと見守る、夏の終わりが近づくと「あぁ、そろそろ地蔵盆だね」と心待ちにするようになった私もだいぶ京都に馴染んできたのだと思う。

娘たちにも馴染みのお地蔵さんがある。

素通りせずにはいられない。何気ない日々の報告や、時には願い事を、馴染みのお地蔵さんの前で手を合わせてお祈りする日常。私は娘たちと一緒に地蔵さんに話しかける時、安心感や幸福感に包まれるのだ。

お地蔵さんが身近にいる京都、大好きです。



安藤 知明

大阪府豊中市

ツーリスト消えし京都の街中で久々にして居場所見つけり

藤川 進一

大阪府和泉市

京恋し朧月夜の紅枝垂れ花見小路に響く鈴の音



園あい

京都府京都市

「東男に京おんな」という言葉、知ったはりますか？

うちは何を隠そう、京都生まれ京都市育ちの正真正銘の「京おんな」です。

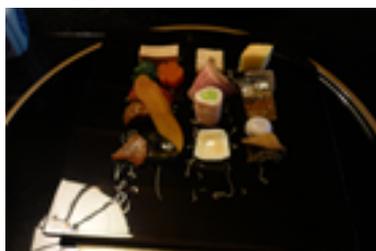
そやしどうしたん？と言われてしもたらそれまでやねんけど、うちにとってはそれがとっても自慢ですわ。うふふふ。

そやかて、京都ほど古い文化や歴史のつまった街はあらしません。寺院、貴族の屋敷跡等々。なんと言っても御所があるし、それに本能寺の変の跡地、坂本竜馬のお墓なんかもありますわ。

日本中でも京都がいちばんでっせ！京都ほどきれいな街はほんまにあらしません。

何と言っても京料理の上品なこと。薄味ややけどしっかりだし汁の味がきいてるわ。また、お茶菓子の美味しいこと！

「京の着倒れ」という言葉のごとく、おしゃれな人多おすし、美人も多おす。その証拠にうちを見ておくれやす。



小坂 武弘

京都府京都市

歴史が長いと人間がひねくれるのか、京都人は難しい。京都で商売が出来たら一人前だと聞きます。

東京は肩書きが有れば、大阪は安くすれば、名古屋はケチだと思えばなんとか成るが、京都人は何を考えているやらと聞きます。

商売で考えておくと言われた大阪ではノーの返事だと言われるが京都人は本当に考えていてくれるのかも知れない？

学生時代、答案用紙に我援軍を求むと書いて出したら、教授からおぬしの援軍にはなれんと返ってきた。京都人も結構面白い。

まあ、考えておいて下さい。

佐口 雄亮

大阪府三島郡島本町

あなたと出会ったのは生まれてすぐでした。

幼い頃、京都の祖母に連れて行ってもらった様々な京都。世界遺産を巡り、地下鉄で動物園に行ったり、車で南丹方面に行ったり。旅の始まり、マルーン色の阪急電車に乗って、西院の地下にもぐる。あのワクワク感は忘れられませんし、今もワクワクしています。

そして、現在は京都府内の高校に通っています。

「日本史や古文の教科書の舞台がすぐそこにある。」

そのような楽しい学校生活を送っていたら、あなたの表情は急に変わりましたね。がらんとした世界遺産、灯火が少なくなった大文字。京都のかたちは変わってしまったかもしれない。でも、あなたを愛す人々の想いは変わらない、と僕は思います。

ほんまはイケズ(行けず)やない京都

そんな日常が早く戻るように願いながら、僕は今日もあなたを待ちます。



永田 純一

青森県青森市

20年前、地元百貨店で京都催事担当になりました。

前任は労働組合委員長で理屈から入るタイプ。2年間売上を落とし出店しないお店が何軒も出てきました。

出店のお願いをしようと電話すると「お越し頂かなくて結構です」ときっぱり。

売場の感覚ではどんなブランドでも「お話だけは伺いましょう」でしたが。

これが、実は京都のある意味優しさとわかるには数年かかりました。その年、宣伝などに力を入れ、現場では掃除から皿洗いごみ投げまで夢

中で務め、前年比120%の売上ができました。

翌年ダメもとで断られたお店に電話しました。

「どうぞお越してください」嬉しかった。

その理由は売上ではなく出店者から「きちんとして一所懸命」と聞いたからだということです。

気難しくて本音を言わない京都。それは、きちんとしていない一所懸命しない人への対応だったのでしょう。

大好きな京都。変に迎合せず本気のおもてなし、あの京都を守ってください。

宮川 泰生

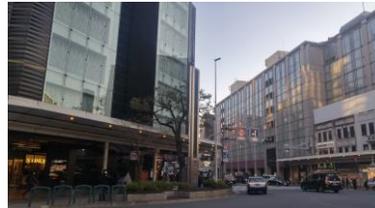
石川県河北郡内灘町

あなたのもとを離れて約二十年、私の人生の中であなたと過ごした時間が占める割合が小さくなる一方です。しかしその分いっそう、思い出としての輝きが増してきたように思います。

テレビや雑誌でお見かけするあなたは、美しく着飾り、都の「かおり」を漂わせています。しかし実際にお会いすると、どうしてもあなたのもとで過ごした青春の「におい」を思い起こさずにはられません。

観光客を横目にして通学した路地裏、テストの後に繰り出した四条河原町、想いを寄せていた女子と歩いた賀茂川縁など、あちらこちらに「におい」があふれています。

遠く離れた日常の中で、その「におい」をふと感じる時があります。しかし次の瞬間、ここはあなたのもとではないことを思い出し、懐かしさが身に染みます。今の私にできることは、「におい」を忘れないでいることです。いつかまたお会いした時、「におい」から立ちのぼる世界を楽しみにしています。



北川 佳奈

東京都中央区



朝の風の匂い
朝の香ばしいパンの匂い
昼の若い大学生の活気
昼の蕩蕩と流れる川の音
夕方どこからか聞こえる鐘の声
夕方の家路を急ぐ人々の雑踏
この京都の日常に私は溶け込む
のが大好きなのです。
大好きだからこそ見えてくる京都
の日常をこれからも大事にした
い。

入賞写真作品



審査委員会 2021年12月1日 審査委員会の様子
京すずめ事務所 第八長谷ビル 2階

第四回「京都への恋文」公募

第四回「京都への恋文」公募に当たってのご挨拶



一般社団法人京すずめ文化観光所
理事長 土居好江

コロナ禍で始まりました2021年です。皆様いかがお過ごしでしょうか。京すずめ文化観光研究所(旧 遊悠舎京すずめ)は第四回「京都への恋文」の公募を2021年2月1日から始めます。日程は以下の日程表に沿って、「京すずめのHP」と「枚方つーしんHP」で案内いたします。皆様からご応募いただけますようお願い致します。

ご応募者の皆様全員に、京すずめの「京都への恋文広場」のご協賛企業様を訪問いただいた時に、特典が受けられます。優れた作品を広場委員で選び、「京すずめHP」と「枚方つーしんHP」に掲載し、皆様からの投票で点数配分して優秀作品を選びます。投票いただいた皆様にも応募者と同じ特典をご協賛企業様訪問時に、特典を享受いただける様下記の日程で行います。

第四回「京都への恋文」公募に当たってのメッセージ

京都府知事 西脇隆俊



「京都への恋文」が、京都を愛する多くの方々に支えられ、第4回目を迎えられましたことを心から お慶び申し上げます。

京すずめ文化観光研究所におかれましては、京都の奥深い魅力や文化の国内外への発信、次世代への継承に努めていただいております。土居理事長をはじめ関係者の方々の長年のご尽力に心から敬意を表します。

新型コロナウイルスの世界的なまん延が1年以上にわたって続き、人々の価値観にも変化が見られますが、このような中でも京都の長い歴史や伝統に裏打ちされた「本物」の文化の魅力は、変わらず人々の心を引きつけています。京都府では、コロナ禍が収束した後は、「本物」の京都に触れ、体感していただけるような観光を進めて行けるよう準備しているところです。

「WITH コロナ社会」のもとであっても、京都の暮らしの原点は受け継がれていかなければなりません。これからも京都が京都であり続けるため、そして、京都が魅力あるまちとして語り継がれていこう、皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

皆様からの「京都への恋文」を心待ちにしております。

第四回「京都への恋文」公募に当たってのメッセージ



京都市長 門川 大作
京都への恋文広場顧問

京都を愛する皆様がその想いを表現する「京都への恋文」。第4回目の開催を心からお慶び申し上げます。開催に御尽力の土居好江理事長をはじめとする一般社団法人京すずめ文化観光研究の皆様に、深く敬意を表します。

私もこれまでに寄せられた、京都の美しい情景や懐かしい光景を描いた数々の名作を拝見し、強く心を揺さぶられました。人と人の距離をとることが求められるウイズコロナ時代だからこそ、文字や絵、写真の力は大きいと感じています。今回も皆様からの作品を楽しみにしております。

これまでの生活や日常に変化が迫られる中であっても、暮らしに息づく京都ならではの文化や伝統は、変わらず引き継いでいくべきもの。本市では、京都を愛する皆様にお力添えをいただきながら、困難に立ち向かい、美しい京都のまちと文化をしっかりと守ってまいります。

結びに、皆様の御健勝と御多幸を祈念いたします。

第四回「京都への恋文」公募に当たってのメッセージ



亀岡市長 桂川孝裕

京都この響きに誰もが憧れ、様々な想いを懐く地、ここ京都「京都への恋文」は全国の多くの皆さんの京都への想いが込められている事でしょう。

私が住む所は森の京都、京都市内の京都と違い、洛外の京都です。私はこれを「もう一つの京都」と称しています。その京都には海の京都、森の京都、お茶の京都、最近では竹の京都などの京都が存在しています。

京都の多様性がここにはあります。「京都の恋文」に是非とも「もう一つの京都」も仲間に入れてほしいと思います。これによりもっと奥深い京都を味わうことができるでしょう。

それぞれの地は、個性豊かな歴史や文化が存在しています。広い意味での京都を愛する皆様に、憧れる京都の魅力を感じていただきたいと思います。

そして思い出に残る京都へ恋文を送っていただきたいと思います。皆様の京都への想いをお待ちしています。

第四回「京都への恋文」公募と「京都への恋文広場」開設

いつも大変お世話になっております。コロナ禍の中、京都が元気になるような活動を推進し、更に京都の魅力発信と求心力を強める為、第四回京都への恋文公募を2021年2月1日より開始させていただきます。昨年、創立20周年をむかえ成人式を終えた京すずめも更に飛躍させて頂きたいと思っております。皆様のご支援で活動を続けることができ、心から感謝申し上げます。

ポストコロナを見据えて、今回は「京都への恋文広場」を2月1日から開設致します。京都からの恋文を京都のキーパーソンの方から頂戴し、HP特設サイト<https://kyosuzume.or.jp/> で掲載させて頂き、優秀作品も広く投稿者からも募り形式に致しました。コロナ禍だからこそできる取り組みを工夫を重ねて、京都の魅力を発信して参ります。何卒よろしくお取り計らいをお願い申し上げます。

第四回「京都への恋文」審査委員会

広場長 (審査委員長)	井上章一	国際日本文化研究センター所長 京すずめ文化観光研究所顧問
顧問	門川大作	京都市長
広場委員 (審査委員)	奥田正叡 斎藤 修 田村圭吾 西村明美 浜田泰介 土居好江	鷹峯常照寺住職、京すずめ文化観光研究所顧問 元京都新聞社代表取締役社長、 京すずめ文化観光研究所顧問 京料理萬重若主人・文化庁文化交流使 柊家女将 日本画家 京すずめ文化観光研究所理事長 (五十音順)
正賞・副賞	京すずめからの賞状、協賛企業様からの提供物等	

京都への恋文広場・広場長(審査委員長)からのご挨拶 井上章一
国際日本文化研究センター所長
京すずめ文化観光研究所顧問



私は京都の西郊、花園に生まれ嵯峨でそだちました。今は南郊の宇治でくらしています。これまでの人生をずっと京都の周辺で過ごしてきたことになります。もう、六十六年間も。

京都という街のことも、それなりにわきまえているつもりです。そして、私はこの街のことが、あまりに好きになれません。いやだなと思うところが、たくさんあります。恋文を書こうとする気は、おこらない。

そんな私が恋文広場の広場長(審査委員長)になんか、なってもいいのでしょうか。おひきうけする前には、ためらいました。私でいいのか、と。

今は腹をくくっています。広場には、多くの便りがよせられるでしょう。なかには、わたしに反省をさせるものがありかもしれません。ああ、そうや。京都には、こんなええところがあったんや。この恋文には、盲点をつかれたな……。そう私へ回心をせまる手紙との出会いに、期待をしています。

川端康成

柗家の紹介文(川端康成先生)

(柗家様のご厚意で掲載させていただいております)

京都ではいつも柗家に泊まって

あの柗の葉の模様の夜具にもなじみが深い。京に着いた夜、染分けのやはらかい柗模様の掛蒲団に女中さんが白い清潔なおほいをかけるのを見ていると、なじみの宿に安心する。遠い旅の帰りに京へ立寄った時はなほさらである。柗の模様は夜具やゆかたばかりではなく、湯呑や飯茶碗などの瀬戸物にも、みだれ箱や屑入れなどにも、ついているのだが、その柗は目立たない。この目立たないことゝ変わらないことは、古い都の柗家のいいところだ。昔から格はあっても、ものものしくはなかった。京都は昔から宿屋がよくて、旅客を親しく落ち着かせたものだが、それも変わりつつある。柗家の万事控目が珍しく思へるほどだ。

京のしぐれのころ、また梅雨どきにも、柗家に座って雨を見たり聞いたりしていると、なつかしい日本の静けさがある。私の家内なども柗家の清潔な檜の木目の湯船をよくなつかしがる。私は旅が好きだし、宿屋で書物をする慣はしたが、柗家ほど思い出の多い宿はない。京の名所や古美術なども、この宿を根にして見歩いた。浦上玉堂の「凍雲篩雪図」を入手したのも、この宿でめぐりあってだ。政治家や財界人ばかりではなく、画家や学者や文学者にも、昔から親しまれた宿として、柗家は古都の一つの象徴であろう。

私は京阪のほかの宿で泊まった後でも柗家へ落ちつきにゆき、中国九州の旅の行き帰りにも柗家に寄って休む。玄関に入ると「来者如帰」の額が目につくが、私にはさうである。

東山魁夷画伯の「京洛四季」序文

大自然と暮らしが共に寄り添い、守りあうまちのすがたは、毎日山を見て暮らす京都市民の暮らしそのものです

「京都の自然ほど、季節の移り変わりを敏感に受け止めて、繊細優美な美しさを反映するものはあるまい。京都の生活ほど、季節を親しく結びついて営まれている例も少ないと思う。それは遠い昔から日本人の美の心の基盤であり、支えであり、現れであった」

黒澤 明監督の愛した京都

京すずめ学校 京都愛物語 (京すずめ瓦版)

黒澤 明監督の愛した京都の講座から 2008年9月21日開催分

「京の宿 石原」ご当主 石原治様、石原弘子様講演

黒澤監督の定宿だった「京の宿 石原」の黒澤ルームにて開催

黒澤明監督が京都ロケの折、また思索、ロケハンの折に15年間、定宿だった京の宿石原の黒澤ルームを会場に「京すずめ学校」の京都愛物語のカリキュラムの一つであり「黒澤明の愛した京都」の講義録を京都への恋文として掲載させていただきます。

「京の宿 石原」のご当主・石原治様と女将の石原弘子様には黒澤明監督について、語って頂きました。

【黒澤明監督とのご縁】

初めて監督が、こちらにいらっしゃったのは「影武者」のロケハンの途中のことでした。黒澤組の上野さんのご縁で、うちにこられたのです。黒澤監督自身は身長が183センチもあったので、鴨井などによく頭をぶつけていらっしゃいました。

なぜか、この宿をととても気に入って頂きました。そして、多くの脚本が、この部屋から生まれたのです。

【黒澤ルームでの執筆】

監督はこの2階の部屋をいたく気に入っておられました。坪庭に面した窓辺に机を、控えの間にはベッドを置いて、執筆されていました。机はもともと、うちにあった学習机ですし、特別にご用意したものではありません。

執筆は朝9時か10時から、夕方6時から食事の時間になるのですが、そのまま深夜1時、2時までの映画の話をするというのが、監督のここでの生活でした。

【黒澤監督の人柄】

「おやじ、僕はアーティストじゃないよ。職人だから、一生懸命、仕事をするんだよ」晩酌しながら、お聞きしたことです。ここにある古美術品を見て、「一生懸命、職人が作ったものは良い」ともおっしゃっていました。

また「ブランドは自分が決めたモノがブランドになるんだ。人が決めるものではないよ」という言葉が印象的です。ほんまもんとは何か、確固たる哲学をお持ちでした。

【石原のおもてなし】

私たちが大切にしているのは、先祖が残こして頂いた建物を大切にしながら、ありのままの自分を出して対応することです。黒澤先生は「そっちが緊張したら、こっちも緊張するんだよ」とおっしゃいました。おもてなしの心があれば、自ずとつたわるものだと教えて頂きました。

またお客様には三分で来て、七分で帰って頂いたら大成功だと思っています。だしすぎないことが大事なのです。

【黒澤監督の愛した京都】

「石原に来たらほっとする。まさしく京都に居る、という気がする」監督がおっしゃるのは、何故でしょう。石原は何の変哲もない町家ですが、例えばこの部屋の面取りの柱であったり、畳や建具にも職人が手掛けた細かい工夫や仕事があちらこちらに散りばめられています。

京都は約千年もの間、都がありに天皇がいて、職人は競争して持

てる技術を切磋琢磨しました。そうして磨き上げられてきたので、京都には衣食住のほんまもんがあるんです。京都にはそうした職人たちや住み人たちの技術や想いが歴史となって積み重なっています。

そういう空気や空間が京都の素晴らしさですし、それが監督の愛した京都だろうと思います。ですから、わざわざ京都に来られて、この石原の、この部屋で多くの素晴らしい映画の作品を作りあげたのでしょう。

【想いをつなぐ宿】

もともと、石原は古美術商でしたが、宿屋としては昭和 35 年に呉服屋の商人宿として始まったそうです。ですから、老舗旅館というわけではありませんが、あちこちに古美術がさりげなく置かれ、また、ご主人の手作りの灯りや小道具もあり、とても落ち着いた雰囲気です。

「京都への恋文」誕生の経緯

2005 年頃から国内外の観光行政官や旅館の女将さん等の研修視察団の企画や講師をお引き受けしていました。自分では気づかなかった京都の魅力を何度も教えられました。多彩な視点で語られる魅力は京都活性化のヒントになるとの思いが「京都への恋文」に繋がりました。

そこで、京すずめ学校のカリキュラムに「京都愛物語」を組み、「京都愛物語オープニング講座・川端康成の愛した京都」をスタートさせました。それは川端康成先生の京都への思いを『古都』から学びたいと思ったからです。



京すずめ学校京都愛物語オープニング講座「川端康成の愛した京都」
京すずめ学校 2008 年 於北山杉記念館

- 1、川端康成の愛した京都
- 2、黒澤明の愛した京都
- 3、紫式部の愛した京都
- 4、徳川慶喜が愛した京都
- 5、土方歳三が愛した京都
- 6、坂本龍馬が愛した京都
- 7、司馬遼太郎が愛した京都
- 8、徳川家康が愛した京都

8 講座を現地現場で開講し京都の魅力を再発見したのです。川端康成先生の『古都』の映画化もこの講座から企画が始まり、「京都への恋

文」が誕生したのです。3回の公募で、アメリカ、イギリス、中国、韓国等の世界各地から、日本全国から5才から87歳までの多世代にわたりご応募賜りました。また、立命館アジア太平洋大学の教授・田原洋樹先生の授業で取り上げて頂き、「京都の圧倒的なブランド力を痛感した、京都は日本の必修科目である」との、力強いお言葉も頂戴致しました。

入賞作品と心にのこる作品を皆様にご高覧賜りたく、冊子として発行させていただきます。第一回、二回の審査委員長の川端香男里先生、第三回審査委員長の井上章一先生、審査委員の先生方からはそれぞれの京都への想いをお伺いでき、川端康成先生の京都への想いを香男里先生からお伺いできたことは人生で最高の宝です。

ちょうど、康成先生ご生誕110年を記念して香男里先生や京すずめの皆様と、北山杉の中源様のご所有の山林で記念植樹も行ったのが2008年、思い出をつくることができました。

また、黒澤明監督が定宿にされていた旅館石原のご当主や女将さんからも監督がどのように京都に魅かれておられたかを黒澤ルームで開講させて頂き、歴代の天皇がどのように京都を愛されていたのかを京都御苑でも開催させて頂きました。この講座から誕生したのが「京都への恋文」公募事業です。

審査委員会では、時には真逆の意見を交換された川端先生と井上先生とのやりとりは「知性の対決の現場に居合わせた」とも思えるほどの貴重な体験でした。

京すずめ創立から20年の間、職人さんの「見覚え、聞き覚え、見て覚え」の修行方法は、現在の教育界の欠落した部分を補う大切な視点であるとご訪問先でご教示賜りました。

「京都への恋文」に入賞された作品を通して、これからの京都のあり方のヒントが得られることでしょう。ご後援、ご協力賜りました企業様、賞品をご提供賜りました企業様、更に今回の冊子発行にあたり、ご協賛賜りました企業様に心から感謝申し上げます。

2008年6月15日 京すずめ学校京都愛物語

川端康成の愛した京都 講義録

川端康成記念会理事長 川端香男里

やや曇り気味の天候の中、北山杉山林所有者の中源(株)の中田社長

のご協力を得て、川端康成氏生誕 110 年と交流の深かった東山魁夷画伯生誕 100 年を記念して、講師の川端香男里先生、ご来賓の日本画家浜田泰介先生ご夫妻、川端康成氏の京の定宿だった柊家旅館の西村女将らと共に、京すずめの会員が記念植樹を行いました。また、2005 年ドイツ・フランクフルトで開催された映画祭 Nippon Connection でグランプリを得た日本映画「二人日和」の受賞および主演の栗塚旭氏が参加されており、これを記念する植樹も行いました。

第2部 講演「川端康成の愛した京都」講師 川端香男里先生 (財)川端康成記念會理事長 東大名誉教授 故川端康成氏娘婿 この美しい日本の自然を残し、守り、後世に、いかにして引き継ぐことができるのか川端康成が京都をテーマとした作品『古都』は、朝日新聞の連載小説として1961年～62年に掲載されました。その頃、康成は、複数の小説を同時並行に執筆していました。『千羽鶴』と『山の音』がそれであり、また、『古都』と『美しさと哀しみと』もそうでした。驚くべき筆力と言わざるを得ません。康成の戦後の文学に係わる活動を述べます。まず、日本ペンクラブの活動です。日本は戦争に負けましたが、日本に対しては批判ばかりで、誰も日本の良さを評価しませんでした。

そこで、康成は、文学という手段で平和に貢献したいと考え、熱心に活動しました。また、康成は美術品の収集にも熱心でした。戦争直後の物の無い時代ですから、没落 旧家の持つ美術品を買い集め、川端コレクションを作りました、このため、多額の借金を抱え、一生借金だらけの人生でしたが、この借金を執筆のエネルギーに変えていた節が窺えます。『古都』は、康成が下鴨に家を借り、そこで生活をしつつ仕上げた作品です。この作品の 解釈ですが、日本での評価は芳しいものではありませんでした。康成自身も「あまえっこ小説」と言っていました。ノーベル賞の対象となったのは、実はこの作品でした。この作品が最初に外国語で翻訳されたのは、ドイツ語でした、北欧の人々はドイツ語を理解しますので、スウェーデンの人にも分かりやすく、しかも当時は、都市を主人公した小説、すなわち都市小説というジャンルがあり、これがモダンとされていました。

つまり「古都」は、モダンな美しい都市小説だとして、評価されたのです。さらに、日本人自身が京都という、古都を、どのように評価しているの

かという文化力も問われ、『古都』はリアリズムの世界と対比的な、ファンタジーの世界を表現し、しかも多くの寓意、比喩を含むものとして、外国で高い評価を得ることになり、ノーベル賞に結びついたと思われます。作品『古都』で表現されている美しい双子の娘は、花の精であり、桜の老木の幹の片隅に咲くスミレの花、また、壺中の鈴虫も意味ある寓意として理解されたのでしょうか。同時に、古都京都の四季の移ろいを鮮やかに捉え、京都の歳時記でもありました。

次に康成と東山魁夷画伯の関係に触れます。二人の交流は、1955年から1962年に康成が亡くなる17年間でした。最初は魁夷氏が康成の美術コレクションを拝見したいとの申し出があり、以来、芸術家同士の頻繁な交流が始まりました。康成が1962年に文化勲章を受章した際には、魁夷氏よりその作品「冬の華」、これは『古都』の文庫本の表紙カバーとなっています。さらにノーベル賞受賞の際には「北山初雪」を贈られています。この二人の間でおよそ100通の往復書簡が交わされ、各地で展示会が行われています。

康成は、書簡の中で魁夷氏に、今のうちに京都を書いて欲しい、京都の姿はやがて消えるかもしれないと伝え、それが、東山画伯の「京洛四季」として、結実しました。私が理事長を勤める「川端康成記念會」は、康成が全力を挙げて日本の美を守ろうと努力し、貢献を行ったことを後世に伝えたいとの思いで、設立したものであり、美術品、書簡の展示などを、全国各地で開催しています。最後になりますが、著名な画家の安田鞠彦も美術品のコレクターであり、良寛和尚の作品の収集家でもあり、康成と情報交換をしていました。

康成は、ノーベル賞受賞スピーチ「美しい日本の私」で良寛の辞世の句を引用し、人は死んだら何も残せないが、自然はあるがまま残ると語りました。この美しい日本の自然を残し、守り、後世に、いかにして引き継ぐことができるのか、これが川端康成の課題であったと考えるところです。

10.「京都への恋文」協賛企業、後援、協力、

京すずめ協賛企業		
プレマ株式会社	(株)キングアソシエイツ	

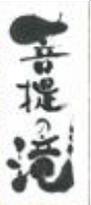
第四回京都への恋文協賛企業 五十音順		
愛染工房	阿ぶり餅一文字屋和輔	嵐山祐斎亭
おぶふ茶苑	京都の珈琲	京阪京都交通株式会社
大徳寺一久	田中長奈良漬店	中源(株)
(株)中嶋農園	(株)半兵衛麩	プレマルシェ・ジェラテリア
プレマルシェ・オルタ ナティブ・ダイナー	柊家	ふく吉
松井酒造株式会社	京料理 萬重	八隅農園
山田製油本店	京都御池ゴマクロサロン 【山田製油直営店】	

第四回京都への恋文賞品ご提供企業		
柊家	中源株式会社	嵐山祐斎亭
松井酒造(株)	おぶふ茶苑	

後援		
京都府	京都市	京都商工会議所
京都新聞	国際交流基金京都支部	

協力		
京都銀行	京福電鉄(嵐電)	

一般社団法人京すずめ文化観光研究所保有商標一覧

		<p>京すずめ保有の商標</p> <p>9 類 菩提の滝 (砂時計)</p> <p>30 類 京都への恋文</p> <p>30 類 京都からの恋文</p> <p>32 類 菩提の滝 (ビール・ミネラルウォーター等)</p> <p>33 類 菩提の滝 (清酒等のアルコール飲料)</p> <p>39 類 京都への恋文</p> <p>39 類 京すずめ(縦書き・横書き)・ Kyo-Suzume</p> <p>41 類 京すずめ(縦書き・横書き)・ Kyo-Suzume</p>
<p>ノーベル文学書受賞作品 『古都』に登場する「菩提の 滝」</p>		<p>当商標のご使用に付いては京すずめにお問合せ下さい。</p>

編集後記

第四回「京都への恋文」公募に、658作品のご応募をいただきました。素晴らしい作品ばかりでした。その中から更に最優秀作品を選ぶことに、審査委員長・審査委員会の先生方も頭を悩まされたことと思います。コロナ禍の公募でしたが、多くの方からの応募をいただき、次回に繋げることが出来ました。

著作権 © 一般社団法人京すずめ文化観光研究所

京すずめ文化観光研究所発行の「京都への恋文」の内容(文書・画像等のデータ)の著作権は京すずめ文化観光研究所に帰属します。また、一部の画像などの著作権は原作者が所有しています。本ホームページ上の文書、画像などの無断使用、無断転載、二次使用はできません。

京すずめ文化観光研究所「京都への恋文」の記載内容(文書・画像等のデータ)のご利用については、事前に京すずめ文化観光研究所に、ご利用の確認と許可を取っていただけるようお願いいたします。



第四回京都への恋文応募作品 舞鶴赤煉瓦w/ポスト
山口 秀樹 京都府福知山市



【編集発行】

〒600-8413

京都市下京区烏丸通仏光寺下ル大政所町680-1

第八長谷ビル2階231

京すずめ文化観光研究所

京すずめHP：<https://kyosuzume.or.jp/>

E-mail：hp@kyosuzume.or.jp

電話：070-6500-4164

非売品